

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会 平成29年度事業報告

I 平成29年度事業等の基本的方向

当財団は、平成28年7月25日設立し、平成29年10月には公益目的各事業等を着実に
行うため、定款を変更しました。

変更定款では、法人の目的を「特別支援学校のスポーツ振興に関する事業を行い、
障害のある児童生徒の健全な発達に寄与することを目的とする。」と北海道の特別
支援学校のスポーツ振興・充実を図り、障害のある生徒の将来の自立に向けた支援
を行うことを明確にしました。

また、当法人の理事及び評議員につきましては、公益財団法人の認定法令に基づ
く組織といたしました。

さらに、各種事業は、平成28年度に引き続いて専ら北海道の特別支援学校を対象
とした「特別支援学校へのスポーツ用具の寄贈」、「2017第1回小野寺眞悟杯北海道
特別支援学校フットサル大会の開催」、「Fリーグエスポラーダ北海道OB選手の特別
支援学校への派遣」、「特別支援学校でのスポーツ指導実践を推進するための研究
助成及び研究成果報告書の発行」などを実施しました。

北海道総務部法務・法人局法人団体課からの公益財団法人移行に係る事前相談も
開始し、平成30年度に移行することができるよう努めました。

なお、本事業報告は、旧定款を踏まえた内容になります。

Ⅱ 事業報告

1 旧定款第4条第1号にかかる支援・普及活動事業

旧定款第4条第1号事業は、道内知的障がい特別支援学校へのフットサルの支援・普及にかかる事業である。このため、各校に「フットサル用品の寄贈」及び「日本フットサルリーグ所属「エスポラーダ北海道」選手OBの派遣」を行った。

(1)「フットサル用品の寄贈」事業

学校名	郵便番号	住所	電話番号	校長	3号球		4号球		ゴール		送料	合計(税込)	発送日	配達完了
					数量	¥2,970	数量	¥2,376	数量	¥8,586				
1 南竜高等養護学校	078-2800	南竜郡南竜町字尾白利加92-21	0125-78-3101	石川 玉乃			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
2 札幌高等養護学校	006-0629	札幌市手稲区手稲前田485-3	011-685-7744	木村 宣孝			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
3 札幌稲穂高等支援学校	006-0004	札幌市手稲区稲穂4条7丁目12-1	011-685-6822	木村 誠			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
4 札幌あいの里高等支援学校	002-6074	札幌市北区あいの里4条7丁目1-1	011-770-5511	佐々木 晋之					2	¥17,172	¥3,800	¥20,972	6月17日	6月20日
5 千歳高等支援学校	068-0045	千歳市真々地2丁目3-1	0123-23-6681	反保 公志			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
6 白樺高等養護学校	061-1264	北広島市樺原21-1	011-376-2353	田近 和憲	1	¥2,970	1	¥2,376	1	¥8,586	¥3,800	¥17,732	6月19日	6月20日
7 新篠津高等養護学校	068-1184	石狩郡新篠津村第45線北13	0126-58-3280	前川 亘	2	¥5,940			1	¥8,586	¥3,800	¥18,326	6月17日	6月19日
8 小樽高等支援学校	047-0261	小樽市銭函1丁目10番1号	0134-61-3400	松浦 孝寿			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
9 伊達高等養護学校	052-0012	伊達市松ヶ枝町105-13	0142-25-5115	小嶋 義勝			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
10 今金高等養護学校	049-4308	瀬棚郡今金町字今金454-1	0137-82-3121	高嶋 利次郎			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
11 美深高等養護学校	088-2252	中川郡美深町字西町25	01656-2-2155	山下 秀樹			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
12 あいべつ校	078-1400	上川郡愛別町字南町27番地	01650-6-5811	山下 秀樹			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
13 紋別高等養護学校	089-5172	紋別市港津町元新1丁目152-1	0158-24-1120	長野 藤夫			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月24日	6月26日
14 新得高等支援学校	081-0002	上川郡新得町西2条南7丁目2	0156-64-2020	日向 正明			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
15 中札内高等養護学校	089-1345	河西郡中札内村東5条南1丁目8	0155-68-3266	西田 裕一			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
16 幕別分校	089-0615	中川郡幕別町南町81番地1	0155-55-2121	西田 裕一			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
17 釧路鶴野支援学校	084-0824	釧路市鶴野58番92	0154-57-9011	小原 雅浩			3	¥7,128			¥1,300	¥8,428	6月19日	6月20日
18 中標津高等養護学校	086-1053	標津郡中標津町東13条北7丁目15-2	0153-72-6700	山下 信弘					2	¥17,172	¥3,800	¥20,972	6月17日	6月19日
19 市立札幌豊島高等支援学校	002-6054	札幌市北区西沢戸4条1丁目1-1	011-774-2222	村岡 章子	2	¥5,940			1	¥8,586	¥3,800	¥18,326	6月17日	6月19日
20 北斗高等支援学校	049-0156	北斗市巾着通3丁目6番地1	0138-74-3431	進藤 仁			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
21 市立札幌みなみ杜高等支援学校	005-0002	札幌市南区真駒内上町4丁目7-1	011-586-0451	池上 修次			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
22 日本体育大学附属高等支援学校	093-0045	網走市大曲1丁目6番1号	0152-67-9141	島崎 洋二			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
23 札幌養護学校	004-0668	札幌市厚別区厚別町山本751-206	011-896-1311	藤根 収	2	¥5,940			1	¥8,586	¥3,800	¥18,326	6月17日	6月19日
24 札幌伏見支援学校	064-6514	札幌市中央区伏見4丁目4-21	011-520-5003	堀川 厚志	2	¥5,940			1	¥8,586	¥3,800	¥18,326	6月17日	6月20日
25 もなみ学園分校	005-0650	札幌市南区石山東3丁目4-1	011-581-8811	堀川 厚志	2	¥5,940	2	¥4,752	2	¥17,172	¥4,800	¥32,664	6月19日	6月20日
26 七飯養護学校	041-1112	亀田郡七飯町鳴川5丁目21-1	0138-65-7004	友善 学	2	¥5,940			1	¥8,586	¥3,800	¥18,326	6月17日	6月19日
27 鷹栖養護学校	071-1233	上川郡鷹栖町北野西3条2丁目1-1	0166-87-2278	外山 正一			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
28 東川養護学校	071-1410	上川郡東川町西10号北36	0166-82-4566	高橋 勝利					2	¥17,172	¥3,800	¥20,972	6月17日	6月19日
29 稚内養護学校	098-6642	稚内市声間5丁目23-7	0162-26-2292	首藤 啓美子			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
30 北見支援学校	090-0807	北見市川東229番地1	0157-61-0071	渡部 秀治			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
31 帯広養護学校	086-2475	帯広市西25条南2丁目7-3	0155-37-6772	竹内 哲					2	¥17,172	¥3,800	¥20,972	6月17日	6月19日
32 釧路養護学校	085-0054	釧路市曉町11-1	0154-25-3438	五十嵐 聖哲	1	¥2,970	1	¥2,376	1	¥8,586	¥3,800	¥17,732	6月19日	6月20日
33 北海道高等養護学校	047-0261	小樽市銭函1丁目5番1号	0134-62-2624	佐藤 靖典			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
34 札幌視覚支援学校	064-6629	札幌市中央区南14条西12丁目1番1号	011-561-7107	石川 大	1	¥2,970	1	¥2,376	1	¥8,586	¥3,800	¥17,732	6月19日	6月20日
35 岩見沢高等養護学校	068-0014	岩見沢市東町2条8丁目960-3	0126-23-5055	上林 宏文			2	¥4,752	1	¥8,586	¥3,800	¥17,138	6月27日	6月28日
合計					15	¥44,550	50	¥118,800	39	¥334,854	¥131,500	¥629,704		

事業「派遣OBの選手北海道「ラポエス」所属リーグフィット日本」(2)

小野寺眞悟障害がい者スポーツ振興会 フットサル指導員派遣巡回指導 予定表 9月19日現在)								
対 象 校	日 時	担 当 者	備 考	派 遣 者	往復派遣距離 ×30円	派遣費 (1日1万円)	派遣費合計	備 考
北海道今金高等養護学校	9月11日 月) 13:00～17:00	海田教諭	授業、部活動の2回実施予定 人数は2回とも25名前後 フットサルの基礎、発展の内容	吉田 市場	468 km×30円 =14040円 高速代 新川～国縫 6080円×2 =12160円	1万×2人 =2万	46200円	29.財小野寺 第029号 決裁済み
北海道稲穂高等支援学校	10月28日 土) 10:00～12:00	門間教諭	初心者向けフットサルクリニック	吉田 市場	58 km×30円 =1740円	1万×2人 =2万	21740円	29.財小野寺 第029号 決裁済み
北海道紋別高等養護学校	11月7日 火) 13:00～17:00	三木教諭	全校授業、同好会指導	吉田 笠間	574 km×30円 =17220円 高速代 新川～比布 4820円×2 =9640円	1万×2人×2日 =4万	66860円	後泊後帰礼
中札内 新得 幕別分校 共同交流大会	11月19日 日) 13:00～16:00	佐伯教頭 濱谷教諭	フットサルクリニック後に 3校で交流試合	吉田 市場	456 km×30円=13680円 高速代 新川～音更帯広 5530円×2 =11060円	1万×2人×2日 =4万	64740円	後泊後帰礼
北海道札幌伏見支援学校 もなみ学園分校	11月21日 火) 13:20～14:45	佐々木教諭	総合学習の授業として行う 12名 4名、配慮必要な子)	吉田 市場	42 km×30円 =1260円	1万×2人 =2万	21260円	日帰り
北海道稚内養護学校	12月6日 水) 13:00～18:00	高木教頭 平川教諭	全校生徒33名 簡単な内容で調整中 近隣校の稚内大谷高校とも交流学 習を検討中 沖縄の養護学校ともネットを通じて 映像授業なども検討中	吉田 市場 笠間	684 km×30円 =20520円 高速代 新川～深川西 3760円×2 =7520円	1万×3人×2日 =6万	88040円	後泊後帰礼

2 旧定款第4条第2号にかかる競技会主催事業

○概要

第1回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会は、平成29年7月28日(金)、北海道青少年会館で開催しました。

第1回大会は、単置高等部校を対象に、北海道特別支援学校18校と韓国の特別支援学校2校、計20校、138名の生徒が参加しました。

本法人は、札幌市から離れた学校には、都市間バスの往復分を助成し、かつ開会式開始に間に合わない学校の前泊宿泊と、閉会式後に各地にもどることができない学校には後泊宿泊を助成しました。特別参加の韓国安東市ではTVニュースでこの大会の様子が放送されました。

大会は、北海道白樺高等養護学校が優勝、準優勝は北海道高等聾学校、第3位は市立札幌豊明高等支援学校と韓国安東栄明学校でした。

また優秀選手ベスト5は、若野翔太君(市立札幌豊明高等支援学校)、ヤン ドンウォン君(韓国済州特別自治道知的障がい蹴球団)、澤田惇君(北海道白樺高等養護学校)、ジョ ヒョンシン君(韓国安東永明学校)、中川 聖君(北海道高等聾学校)が選ばれ、フェアプレーに徹した選手を賞する小野寺眞悟賞は、山本 隼君(北海道函館五稜郭支援学校)と二川日菜さん(北海道中札内高等養護学校幕別校)に贈られました。

○組織

- 大会長 小野寺 眞 悟(理事長)
- 副大会長 小野寺 裕 司(業務執行理事)
- 大会参与 堀 達也、鎌田 昌市、堰 八 義博、細 木 直 人(理事)、水野 克也(監事)
- 実行委員長 鈴木重男(事務局長)
- 総務委員会

受付・補助金等交付(各校の出欠チェック、パンフレット配布等)、大会写真・記録、駐車場

委員長 森田征男氏(札幌北の杜ライオンズクラブ) 委 員 札幌北の杜ライオンズクラブ

○競技委員会 大会日程作成、大会競技ルール、試合組合・抽選

委員長 吉田順省氏(社会福祉法人明日佳)、
副委員長 笠間慎也氏(社会福祉法人長沼陽風会)
委 員 宮越けんじ氏(北海道旭川高等支援学校)、笹本大輔氏(北海道白樺高等養護学校)
濱谷良介氏(北海道中札内高等養護学校)、鳴海潤一氏(北海道函館五稜郭支援学校)
金 熙洙氏(韓国安東永明学校)

○審判委員会 審判業務

委員長 小野寺隆彦氏(エスポラーダ北海道 GM&監督) 委 員 エスポラーダ北海道サテライト

○宿泊委員会 前泊・後泊の受入・送出の計画・実施、宿泊選手等支援

委員長 櫻田なおみ氏(北海道拓北養護学校)、
副委員長 島田雄允氏(北海道岩見沢高等養護学校)
委 員 加藤由希奈氏、須藤育美氏、荻野志穂氏(北海道札幌養護学校)
佐々木大介氏、竹内太氏、中川敦志氏(北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校)

○進行委員会 開会式・閉会式・競技進行、賞状筆耕、役員等謝金交付、救護関係

委員長 加藤多満美氏(北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校)
委 員 加藤由希奈氏(北海道札幌養護学校)、須藤 育美氏(北海道札幌養護学校)
救 護 米川 生美氏(社会福祉法人明日佳あすか House 手稲)

○会場委員会 会場設定及び撤収

委員長 笹本大輔氏(北海道白樺高等養護学校)
委 員 東山崇磨氏、高橋由起氏、田村昌平氏、村井拓斗氏、鬼木宣尚氏、藤井悟氏、嘉野
石渡照彦氏(北海道白樺高等養護学校)

○プログラム委員会 プログラム印刷・製本 ※表紙デザイン 北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科学生

委員長 斎藤芳朗氏(北海道千歳高等支援学校)
委 員 古木憲吾氏、金津英尚氏、西川 満氏、保木本太地氏(北海道千歳高等支援学校)

Aブロック					
	1 1 済州道	2 2 豊明	3 3 新機津	4 4 紋別	勝点 得失差 順位
1 1 済州道		0●5	1●3	0△0	1 -7 4
2 2 豊明	500		0△0	600	7 +11 1
3 3 新機津	301	0△0		201	7 +3 2
4 4 紋別	0△0	0●6	1●2		1 -7 3

Bブロック					
	5 5 稲穂	6 6 白樺	7 7 幕別校	8 8 中標津	勝点 得失差 順位
5 5 稲穂		0●5	1△1	0●2	1 -7 4
6 6 白樺	500		402	400	9 +11 1
7 7 幕別校	1△1	2●4		0●1	1 -3 3
8 8 中標津	200	0●4	100		6 -1 2

Aブロック	学校名	略名
1	大韓民国平壤特別自治道 短距離カレイドワーズ	済州道
2	市立札幌南高等学校	豊明
3	北海道新機津高等学校	新機津
4	北海道紋別高等学校	紋別

Bブロック	学校名	略名
5	北海道札幌南高等学校	稲穂
6	北海道白樺高等学校	白樺
7	北海道中札内高等学校 幕別分校	幕別校
8	北海道中標津高等学校	中標津

Cブロック					
	9 9 韓国永明	10 10 今金	11 11 新得	12 12 五稜郭	勝点 得失差 順位
9 9 韓国永明		2△2	401	201	7 +4 1
10 10 今金	2△2		501	1△1	5 +4 2
11 11 新得	1●4	1●5		0●4	0 -11 4
12 12 五稜郭	1●2	1△1	400		4 +3 3

Dブロック					
	13 13 高壁	14 14 中札内	15 15 みなみの杜	16 16 札高美	勝点 得失差 順位
13 13 高壁		300	401	100	9 +7 1
14 14 中札内	0●3		0△0	0●1	1 -4 4
15 15 みなみの杜	1●4	0△0		100	4 -2 2
16 16 札高美	0●1	100	0●1		3 -1 3

Cブロック	学校名	略名
9	韓国安東永明学校	韓国永明
10	北海道今金高等学校	今金
11	北海道新得高等学校	新得
12	北海道函館五稜郭高等学校	五稜郭

Dブロック	学校名	略名
13	北海道高壁高等学校	高壁
14	北海道中札内高等学校	中札内
15	市立札幌みなみの杜高等学校	みなみの杜
16	北海道札幌高美高等学校	札高美

2017第1回 小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会 決勝トーナメント



2017第1回 小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会 交流戦

4位チーム 交流戦	大韓民国済州特別自治道 知的障がい蹴球団	0 — 0	北海道札幌稲穂高等支援学校
	北海道新得高等支援学校	1 — 0	北海道中札内高等養護学校
3位チーム 交流戦	北海道紋別高等養護学校	1 — 2	北海道中札内高等養護学校 幕別分校
	北海道函館五稜郭支援学校	1 — 1	北海道札幌高等養護学校
2位チーム 交流戦	北海道新篠津高等養護学校	1 — 0	北海道中標津高等養護学校
	北海道今金高等養護学校	4 — 0	市立札幌みなみの杜高等支援学校

2017第1回 小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会 個人賞

ベスト5

若野 翔太	市立札幌豊明高等支援学校
ヤン ドンウォン	大韓民国済州特別自治道 知的障がい蹴球団
澤田 偲悠	北海道白樺高等養護学校
ジョ ヒョンシン	韓国安東永明学校
中川 聖	北海道高等聾学校

小野寺眞悟賞

山本 隼	北海道函館五稜郭支援学校
二川 日菜	北海道中札内高等養護学校 幕別分校

アンケート集約

1 開会式について

- ・挨拶の音が聞き取りにくかった。音が小さかった。(3件)
- ・韓国語通訳や、手話通訳があって良かった。
- ・生徒が挨拶に注目できるように、演台や、スクリーンに映写して会場全体が見えるような形が良いのでは。

2 本大会の競技進行について

- ・試合の結果を控室にも掲示していただけると助かる。
- ・スムーズな進行でした。
- ・試合会場の出入り口が狭く、手間がかかった。
- ・来年度も今年度同様でよい。
- ・試合が前後半あると良かった。アリーナのコート数が確保できれば、調整は可能ですか。
- ・試合開始時刻の変更等が分かりづらいところがあった。選手のモチベーションにも大きく影響するので、改善を検討してほしい。

3 前泊、後泊について

- ・良かった。
- ・前泊の受付可能時間を示していただけると良かった。

4 弁当、パンの配給について

- ・十分すぎるほどの量をいただきました。ありがとうございました。
- ・大変助かりました。
- ・保護者の負担も減り、大変助かった。
- ・ゴミの分別、回収ができると良かった。難しければ、各校での分別、回収の徹底を周知されると良かった。

5 その他、大会全般について

- ・リーグ戦の合間に試合を設定していただきありがとうございました(あいの里)
- ・スムーズな進行でした。
- ・試合数が多く設定されていたので、活動時間を多く確保できて良かった。
- ・交通費、宿泊費を負担していただき、大会に参加しやすかった。
- ・大会前日に練習できたのは良かった。可能であれば、ボールを貸出していただけると助かる。
- ・ウォーミングアップについて、ボールを蹴って良い場所や時間帯(試合前に5分設ける…)そのボールは各チームで持参する…など、細かな部分が確認できると良かった。
- ・次年度の真駒内アイスアリーナの広さは分かりませんが、他校の試合を見られるスペースがあると良かった。ただ、今年度同様に控え室もあるとありがたい。
- ・外靴と上靴の表示がなかった。また外靴置き場がなかった
- ・都市間バスではなく、町バスを使用した際にも助成金を出していただけると今後も参加

3 旧定款第4条第3号にかかる健康保持・増進事業

(1) 事業の概要

本事業は、北海道八雲養護学校に在籍している希少な障がいである筋力低下と筋萎縮を症状とする神経筋疾患児(筋ジストロフィ児)の児童生徒と同校を卒業し、併設の国立八雲病院に入院加療している卒業生が、共に活動することにより、健康の保持・増進を図ることができる「電動車いす使用のスティックスポーツ活動」への助成である。

(2) 平成29年度の活動内容

ア 平成29年度のスティック部の活動

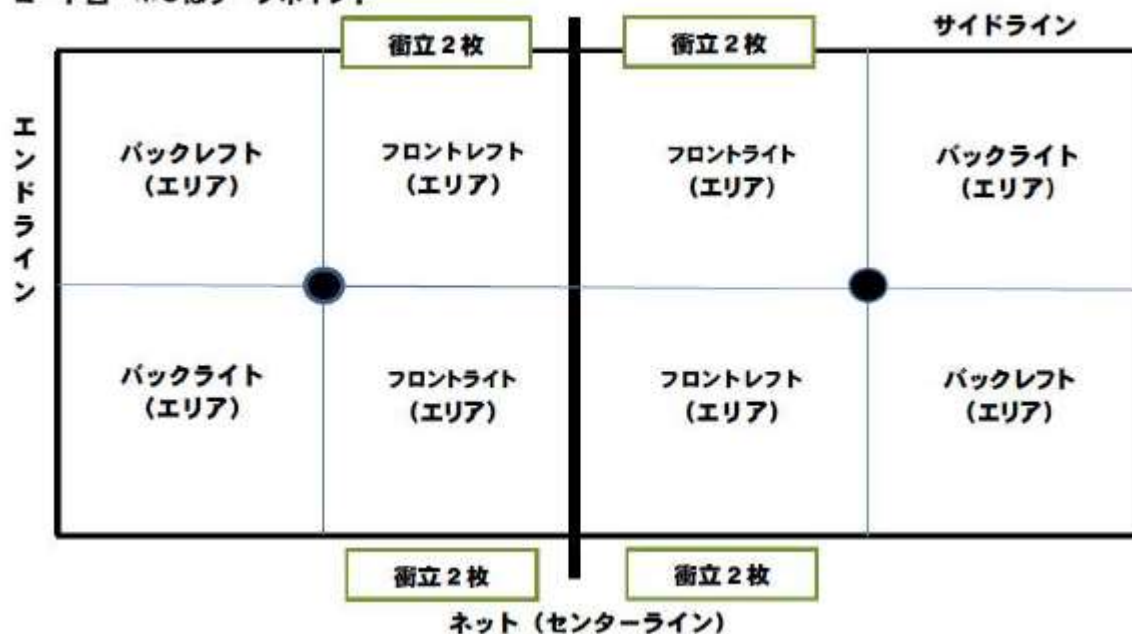
平成29年6月17日(土)～9月23日(土) 計9回実施

イ 新たなスティックスポーツの工夫・実施

平成29年度は、昨年度、新たに開発したステック・バレーボールを実施した。実施に当たっては、本校体育祭で事前に実施し競技の練習を進める中で、教員と児童生徒の話し合いのものと、ルールの変更を行いながら、現在のルールを完成させた。

また、参加者の車いすの形状や姿勢等に応じてスティックを作成し実施した。

コート図 ※●はサーブポイント



○ ステック・バレーボールの競技ルール概要

- ・1 チーム4名の計8名の選手が、ネットを挟み、バレーボールを車いすに取り付けた専用の用具に当てて打ち合い得点を競い合う。
- ・前衛左側を「フロントレフト (FL)」、前衛右側を「フロントライト (FR)」、後衛左側「バックレフト (BL)」後衛右側「バックライト (BR)」と呼ぶ。

基本的に指定ポジション（エリア）内のボールしか操作することができない。

- ・サーブ権を得たチームが、サーブを行う。サーブとは、サーブポイントに置かれたボールをBRの選手が相手コートに打ち込むことをいう。
- ・サーブ権を得たチームはローテーションを行う。ローテーションとは、サーブ権を得たチームが時計回りにポジション（エリア）を1つ移動することをいう。
- ・自コートにあるボールがネットの下を通り、相手コートのサイドライン又は、エンドラインを完全に超えた場合、得点が与えられる。
- ・攻撃側が打ち込んだボールが、守備側コートのつい立てが設置されたサイドラインからボールが出た場合、守備側に得点が与えられる。

■競技用スティック



参加者のオーダーを受け、車いすの形状や姿勢に合わせてスティックの形状を工夫し、競技に参加しやすいようにしています。

■競技の様子



それぞれのスティックの形状に合わせた攻撃をしたり、チームメイトでポジションを確認しながら守備をしたりします。



作戦タイムでは、チームメイトや先生と一緒にどのような攻撃をすることで得点を奪うことができるかなどを考えます。

ウ 成果と課題

(ア) 成果

- ① 新たなスティックスポーツを実施したことにより、スティック部の活動の充実につなげることができた。
- ② 作戦を考える際のチーム内での話し合いや試合中に声の掛け合いなど行うことにより、参加者のコミュニケーション能力の向上につなげることができた。

(イ) 課題

- ① 相手チームのミスによる得点が多く、相手のミス待ちになってしまうことから、ルールや攻撃の在り方などを検討していく必要がある。
- ② 車いすスポーツを積極的に行っている、先進的な地域の視察を実施するなどして、今後の活動の更なる充実を図っていく必要がある。

(3) 使用スティック及び競技に使用する器具の補修と修繕

- ・ 競技用ゴールの補修用：アクリル板1万円相当を1枚、シナベニア材5千円相当2枚など購入
 - ・ 競技用スティック及びコートフェンスの作製・補修：木板1枚3千円程度を2枚購入
 - ・ 上記の作製・補修に係わる金具・のこ刃やねじ、両面テープ、キャスターゴム車等1万円程度購入
 - ・ 修繕状況及び活動状況写真
- 修繕の様子



活動の様子



4 旧定款第4条第4号にかかる放課後・日中活動推進事業

(1)「フットサル指導の実践指定研究校の研究成果報告会」及び「フットサル研修会」

同日に開催し、参加者には、校長の申し出により、学校所在地から札幌市までの都市間バス代金及び前泊必要者への5,000円の助成を行った。

主 催 一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会
共 催 社会福祉法人明日佳、社会福祉法人長沼陽風会
後 援 エスボラータ北海道
北海道教育委員会

期 日 平成 29 年 3 月 17 日(土)
会 場 北海道青少年会館コンパス

開 催 要 項

2018 第 1 回北海道特別支援学校スポーツ研究成果報告会
平成 29 年度第 2 回北海道特別支援学校フットサル研修会

提 導 員 小 野 寺 眞 悟



一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会の願い、

この度、私たち一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会は、平成 29 年 10 月、「北海道の特別支援学校のスポーツ振興に関する事業を行い、障害のある児童生徒の健全な発達に寄与する。」ことを目的とすると決定しました。このことにより、北海道教育委員会及び札幌市教育委員会をはじめとして、北海道特別支援学校長会及び障害種別校長会等や道内の各特別支援学校と連絡したスポーツ振興を事業化して、より一層、障がいのある児童生徒の心と体を強い、卒業後、地域での就労に付けた力を付けることに寄与することができるようになりました。

このため、道内全ての特別支援学校には、狭い空間で楽しむことのできるフットサルの用具等の贈贈や、平成 30 年 7 月 27 日、第 2 回小野寺眞悟杯フットサル大会を札幌市真駒内アイスアリーナで開催します。ここには新道庁等部校の全てと共に、札幌から遠くにある管内養護学校、特別養護学校、特別養護学校、特別養護学校、七軒養護学校をはじめとした道内の全ての養育児童の中養等部校も招待します。

また、各特別支援学校には、エスボラータ北海道の元選手を派遣する事業や、授業等におけるスポーツ指導の工夫及び地域の人々とのスポーツ交流の拡充の工夫などを推進する研究助成と、その成果を顕微した研究紀要を発行し、道内各特別支援学校に配布するとともに、その成果を報告するための研修会も開催します。また、北海道八雲養護学校のスチーフ・スポーツ等の開発工夫の助成も行っています。

私たちは、このような具体的な事業等を通して、障害のある児童生徒の健全な発達に寄与するという本法人の目的を現実化に達成したいと願っております。

今後とも、私たち一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会にご協力にご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

1 目的 北海道特別支援学校のポーツの充実・振興のため、本法人が指定した特別支援学校のポーツ研究成果を報告するとともに、特別支援学校の放課後及び休業日の日中活動として、フットサルを楽しむことができるよう、教諭及び宿舎指導員等(含む、校長承認の即活動指導員)を対象に、フットサル技術指導・ルール解説等のフットサル研修会を開催します。	2 日 程 午前9時受付開始 「2018 第1回北海道特別支援学校スポーツ研究成果報告会」 午前9時30分 開会式(主催者挨拶 理事長小野寺眞悟、事務連絡等 午前10時 研究成果報告」各校30分間 ○北海道稚内養護学校 知的障がい特別支援学校でのフットサル指導の実践と可能性 ～稚内養護学校中学校部、高等部の実践を通して～ ○北海道紋別高等養護学校 外部指導者の活用や指導方法の工夫 ○北海道中札内高等養護学校 高等養護学校のフットサル指導における実践と工夫 研究協議(司会 事務局長 鈴木重男) 午 前 11 時 30 分 昼食(各自) 替替え、体育館に移動 「平成29年度第2回北海道特別支援学校フットサル研修会研修会」 午 後 1 時 開始 体育館 講師 古田順省氏、空閑廣也氏、市場大輔氏、辻 良樹氏 質疑等 午後3時30分 終了
3 その他 平成30年度の当法人事業については、次の内容になっております。具体的な申込等については、北海道特別支援学校長会を通じて、平成30年4月、周知連絡いたします。 ①2018 第2回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会 平成30年7月27日(水)、セキスイハイムアイスアリーナ高駒内室内競技場が会場です。札幌市以外の学校の都市間バス代金の助成。道属地の学校には、26日前泊及び27日の後泊を助成。併置中等部と単置高等部の2カテゴリーの大会として開催します。 ②フットサル等用具を寄贈します。 ③スポーツ活動の実践研究指定校には10万円を助成。研究成果報告書に執筆します。 ④フットサル指導員を各学校に派遣します。 ⑤道徳科等授業にエスポート北海道監修の小野寺隆彦氏を講師として派遣します。 ⑥③での成果を研究成果報告会で発表する機会とフットサルを研修する機会を設けます。 ⑦その他、障がい種別スポーツ大会開催の助成を検討します。	

4 研究成果発表 北海道稚内養護学校 知的障がい特別支援学校でのフットサル指導の実践と可能性 ～稚内養護学校中学校部、高等部の実践を通して～	北海道紋別高等養護学校 外部指導者の活用や指導方法の工夫
北海道中札内高等養護学校 高等養護学校のフットサル指導における実践と工夫	

5 ネットサル研究会

講師 吉田 慎也 (北海道工スポラーダOB 社会福祉法人明日佳園(株))
 講師 田嶋 良樹 (北海道工スポラーダOB 社会福祉法人明日佳園(株))
 講師 辻 良樹 (北海道工スポラーダOB 北海道美奈高等専門学校(市舎指導員))

6 参加者名簿(申し込み順)

1	北海道今金高等学校	教諭	鹿田 健
2	北海道今金高等学校	教諭	山本 拓郎
3	北海道室蘭高等学校	教諭	安部 用太郎
4	北海道美奈高等学校	教諭	天野 翔太
5	北海道創成高等学校	教諭	上野 望
6	北海道創成高等学校	教諭	小笠原 純
7	北海道創成高等学校	実習指導員	小松 和樹
8	北海道札幌高等学校	実習指導員	高木 健吾
9	北海道札幌高等学校もみぎ学舎分校	教諭	佐々木 大介
10	北海道札幌高等学校もみぎ学舎分校	教諭	中川 敦志
11	北海道札幌高等学校	教諭	長嶋 真平
12	北海道札幌高等学校	教諭	古川 賢希
13	北海道北斗高等学校	教諭	戸倉 広器
14	北海道札幌高等学校	教諭	高橋 翔平
15	北海道札幌高等学校ベテカリの部分校	教諭	廣下 健也
16	北海道札幌高等学校	教諭	廣谷 良介
17	北海道南広高等学校	教諭	六本木 博文
18	北海道五ヶ野高等学校	教諭	嶋 潤一
19	北海道新得高等学校	教諭	山口 智也
20	北海道札幌高等学校南部分校	教諭	二階堂 愛莉
21	北海道札幌高等学校	校長	田村 啓子
22	北海道札幌高等学校	教諭	平川 亮一
23	北海道札幌高等学校	教諭	石川 徹
24	北海道札幌高等学校	校長	長野 勝夫
25	北海道札幌高等学校	教諭	三木 進
26	北海道札幌高等学校	教諭	平川 孝典
27	北海道札幌高等学校	教諭	成田 風樹
28	北海道札幌高等学校	専任指導員	島田 延亮
29	北海道札幌高等学校	教諭	長沼 孝人
30	市立札幌みなみの高等学校	教諭	金子 裕
31	北海道立特別支援教育センター	指導員	高橋 浩一
32	北海道立特別支援教育センター	指導員	山正 正太
33	北海道札幌高等学校	教諭	佐本 大輔
34	北海道札幌高等学校	教諭	栗山 崇徳
35	北海道札幌高等学校	教諭	藤野 隆仁
36	北海道札幌高等学校	教諭	村井 拓斗
37	北海道札幌高等学校	教諭	藤井 佑樹
38	北海道札幌高等学校	教諭	嶋田 祐人
39	北海道札幌高等学校	教諭	嶋田 貴希
40	北海道札幌高等学校	教諭	西田 健一
41	北海道札幌高等学校	教諭	西田 健一
42	北海道札幌高等学校	事務主任	川口 冬馬
43	北海道札幌高等学校	事務主任	遠藤 史樹

2018 第 1 回北海道特別支援学校スポーツ研究成果報告会

期 日 平成 30 年 3 月 17 日(土) 午前 9 時 30 分～午前 12 時

会 場 北海道青少年会館大研修室 参加者 41 名(希望者 43 名 欠席 2 名)

1 北海道稚内養護学校の成果報告

研究テーマ「知的障がい特別支援学校でのフットサル指導の実践と可能性
～稚内養護学校中学部、高等部の実践を通して～」

《背景》

- ・実践を通して、どんな指導内容、方法が適切なのか知りたい。
- ・生徒の実態に応じたスポーツの実践として、フットサルの可能性を探求したい。

《研究目的》

- ・教材教具の工夫、開発を含め、生徒に最適な指導方法を見いだすこと。

《実践の様子》

中学部

- ・ボールを手で触る生徒が多かった→みんなで手を繋ぎ、ボールを足で止める、蹴る練習をした。
- ・体の色々なところでボールを止める。(頭、足裏、胸、膝、お尻、お腹など)
- ・パス&ゴール(蹴って、走って、止めて、シュート)

→ディスクマーカー(円盤の形の教材)を使用した。

- ・時にはゲーム感覚の遊びを取り入れた。

フットサルゲートボール(コーンとバーのセットに番号が振られていて、1 から順にパスをしていく。)

- ・フットサルボーリング(倒すものが目に見えると分かりやすい。)

高等部

・車椅子用ボールキャッチマシーン(車椅子の足元に取り付けたバケットでボールを受け取ったり、パスしたりできる。)

- ・インサイドキックの時に足型マークを使う。
- ・キャラクターゲットスローブ
- ・ティーアップ台(ペットボトルで作った台)の活用。
- ・稚内大谷高校サッカー部との交流学习ができた。
- ・スノーシューを活用した雪中フットサル→バランス感覚の強化。

☆道具を寄贈していただいたこと、寄付金があったことがフットサルに取りかかる 1 つのきっかけになった。

《成果》

- ・教員からも、フットサルをやってよかった、生徒たちがこんなにできるんだという達成感を得た声が上がった。
- ・中学部から高等部への継続した指導(保健体育等)は可能だった。

《今後の課題》

- ・人数の確保、実態からの難しさ、組織的な指導の難しさ

2 北海道中札内高等養護学校の成果報告

研究テーマ「高等養護学校のフットサル指導における実践と工夫」

《研究テーマ》

- ・練習メニュー(ウォーミングアップ、1 対 1、ゲームでの動き)、実践の見直し
- ・十勝、地域におけるフットサルを通しての交流

《実態》

- ・生徒のほとんどが未経験者
- ・週 1～3 回練習

《実践内容》

- ・少人数、限られた時間だからこそ、より効果的で質の高い練習が求められる。
 - ・ウォーミングアップはカラーマーカーを 4 色程度使って活動。→足の裏で止める、進むなどの判断が早くなった。
 - ・1 対 1 ランニング(ボールなし)、1 対 1 ボールあり、1 対 1 ボールありでゴールに向かっていく練習を段階的に取り組んだ。
 - ・フリーズゲームからゲームをすることで動き方やポジショニングを理解することができた。
 - ・地域との交流(本校、分校、新得高等支援と合同練習)ができた。
- ☆寄付金のおかげで、新しいユニフォームが購入でき、生徒たちはとても喜んでいたし、とても良かった。

《成果》

- ・合同練習は生徒からまたやりたいという声が多く上がった。
- ・フットサルへの理解や考え方、体の使い方が以前より身につけることができた。
- ・練習の質を見直しできた。
- ・3 校で交流できたことで、生徒の刺激になり、モチベーション維持にもつながった。

《課題》

- ・1対1を諦めず、体をぶつける、戦う気持ちを出す。
- ・今後も地域での交流を継続したい。(2月に村の中学校と練習試合ができた。)

3 北海道紋別高等養護学校の成果報告

研究テーマ「外部指導者の活用や指導方法の工夫」

＜テーマ設定の理由＞

- ・小野寺眞悟杯に参加するため、フットサル同好会を立ち上げた。→30名近くの入会希望があった。
- ・生徒の興味関心の高さが伺えた。
- ・地域資源、外部指導者の活用で、地域とのつながりを意識。

＜学校の実際＞

- ・水産加工業を中心とした地域とのつながりが強い。
- ・若手教員が数多く在籍→チームワークの良い学校。

＜指導の記録＞

○練習の工夫

- ・ボールネットの活用：ボールが足に当たるという感覚を養うための練習
→生徒らは徐々に蹴り方を工夫するように。(強さや当てる足の位置など)
- ・フリーマンを取り入れたゲーム：ボールの取り合いを減らし、攻撃に繋げる練習
→フリーマンにボールを預けるという目標ができ、ゴールに近づけるように
- ・ブラジル体操：チームとしての一体感を高めるウォーミングアップ
→大会前には生徒一人ひとりが大きな声をだし、積極的に取り組むように。
- ・ユニフォームを着ての練習：生徒のモチベーションを高めるために、研究費用の一部でユニフォームをフォームを購入
→「自分たちは同好会なんだ!」という生徒たちの意識の変化

○「小野寺眞悟杯」での様子

- ・普段できない経験(試合だけでなく、気持ちの経験も)、同年代と試合をすることで、勝敗を意識し、悔し涙を流す生徒も。

＜研究の成果＞

- ・小野寺眞悟杯に参加することが新聞記事になった。そのことで、学校の代表としてではなく地域の代表として大会に臨んでいるという責任を得ることができた。
- ・大会会場の片付けに携わり、生徒らは多くの人の支えがあり、競技に参加できることを実感することができた。

＜今後の課題＞

- ・フットサル同好会は来年度から部活として、本格的に始動する。それに伴い、指導の改善や工夫をしていく。
- ・生徒自身が地域で活躍、交流する楽しさを味わうために、地元大会へ積極的に参加していく。

4 研究協議の概要



＜北海道稚内養護学校＞

Q 小学部の児童の思いと今後学校として、小学部ともどのように連携していくか。

A 今回の研究では小学部の意識調査は行っていない。

小学部にはサッカーを教えられる専門の指導者がいないことなど課題はあるが、今回の授業を小学部の生徒は見ており、「楽しそう」と感じていた。全学年が取り組めるわけではないが、中学部への移行段階をなる高学年などで、今回の取り組みを生かしていきたいと思っている。

＜北海道紋別高等養護学校＞

Q 学舎連携についてどう考えているか、紋別高等

養護の取り組みも踏まえて。

A 本校は土日、自宅に帰ることを推進している。そのため、地域のサッカー大会に出場する場合は事前に在舎の許可をとっている。今後、練習試合等をしていく時には、生徒たちが在舎している曜日に試合を設定したり、場合によっては現地集合、現地解散等にするなど保護者の協力も必要になってくるかもしれない。いずれにせよ、寄宿舎のある学校では、部活動を進めていくにあたり学舎連携は欠かせない。

＜北海道中札内高等養護学校＞

Q 前任校(白樺高等養護)と現任校(中札内高等養護)との違い

A 前任校：生徒同士で試合ができる。チーム内で試合回数を増やせるため、チームとしての技術

が向上していく。

現任校：部員数が少なく、個別に声を掛けられるため個々の技術の強化につながる。

参加者の意見等

- ・どの学校でも、実態に合わせて工夫し指導していると感じた。普段の生活で脚でボールを触るという動作がないため、指導をスモールステップで繰り返し行うことで少しずつ身につけてきていると感じた。そして、フットサルを通して技術だけでなく、地域との繋がりや人間性、一体感など様々なことを学んでいると思った。どの学校の生徒も楽しみながら取り組んでいるのが良かった。これが、目的にもある放課後や休業日、卒業後の余暇活動に繋がっていくと思う。
- ・本校でも昨年 12 月に球技にフットサルを取り入れました。専門の教員が少なかったということもあり、長らく取り入れてなかったという要因からフットサルどころか、ボールを蹴ったことすらない生徒がほとんどでした。能力差も大きいこともあり、毎回頭を悩ませながら指導を進めました。今回の報告会でうちの生徒ならこれはできる、これなら楽しみながら技術が向上するだろうというものが数多くありました。参考にさせていただきます。
- ・今回の研修を通して、様々な学校の取り組みを知れてよかったです。実際の練習内容や地域との関わりかたなど、具体的に参考になりました。本校は肢体不自由の高等養護学校ですので、生徒の実態、障害によって取り組む方法にも工夫が必要だと思いますが、サッカー、フットサルに興味がある生徒も多いですので、前向きな取り組みができればと思います

第 2 回北海道特別支援学校フットサル研修会

期 日 平成 30 年 3 月 17 日(土) 午後 1 時～午後 3 時 30 分

会 場 北海道青少年会館体育館

参加者 39 名(希望者 41 名 欠席 2 名)

研修内容

1 キックイン時のサインプレーの徹底

3 パターンを身に付けるよう、図示してさらに体験する。

2 フットサルのルールを身に付ける

ウォーキングフットサルで遊びながら、ルールを身に付ける。

3 フットサル実技

ゲーム形式でチームプレーを体感する。



参加者の意見等

◎午後の実技を受けての感想

・スポーツを通して、子供達に色々な学習をすることができると感じました。また、他校の先生方と交流する機会をいただき、ありがとうございました。この体験を生かし、日々の学習に取り組んでいきます。(もなみ学園分校 佐々木先生より)

◎今日の研修会に参加した感想

・午前の実践例の発表では、どの学校にもエスポラーダの元選手たちが実際に来校してもらい、アドバイスを受けて、若きこれからの先生たちによって、生徒に向けた細かな熱い指導が語られました。午後は、エスポラーダ選手のプロ技術の指導を受け、最後のゲームでは、フットサル大会さながらに白熱したプレーに盛り上がりました。この研修会で、元気をもらうことができたことも含め、この研修会のありがたさを痛感しました。(拓北養護学校 両國先生より)

(2) 「フットサル指導の実践研究指定校」事業と研究成果報告書の発行

フットサル指導に係る実践研究指定校として、北海道稚内養護学校及び北海道紋別高等養護学校、北海道中札内高等養護学校を指定した。

実践研究指定校は、研究テーマを設定し、各学校の課題等を解決するための実践的研究を行い、その成果を整理した。

その成果は、「スポーツ研究成果報告書2017(No.1)」として、200部印刷・製本・発行し、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、国立特別支援教育総合研究所、道立教育研究所、道立特別支援教育センター、道内特別支援学校等、関係者に配布した。

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会

北海道特別支援学校

スポーツ研究成果報告書 2017 (No.1)

スポーツは、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等、人格の形成に大きな影響を及ぼすものである。

～「スポーツ基本法」より～

巻 頭 言

特別支援学校の児童生徒に対するスポーツについて、「スポーツ基本法」は「スポーツは、とりわけ心身の成長の過程にある青少年のスポーツが、体力を向上させ、公正さと規律を導ぶ態度や克己心を培う等、人格の形成に大きな影響を及ぼすものであり、国民の生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものであるとの認識の下に、学校、スポーツ団体、家庭及び地域における活動の相互の連携を図りながら推進されなければならない」と述べています。

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会は、先のスポーツ基本法の基本理念を踏まえ、北海道の特別支援学校児童生徒のスポーツ振興に関する事業を行い、障がいのある児童生徒の心身の健全な発達に寄与することを目的として、平成28年7月、設立された法人です。

当法人は、本道特別支援学校フットサル大会を主催する事業、特別支援学校にフリーグ所属エスボラダ北海道のOB選手を派遣する事業、フットサル用具を寄贈する事業等とともに、平成29年度、北海道稚内養護学校及び北海道紋別高等養護学校、北海道中札内高等養護学校の3校に児童生徒のスポーツ活動充実に向けた実践研究促進の助成事業を行いました。

本集録は、この助成対象3校の実践研究成果報告を柱として、当法人が主催した「特別支援学校フットサル指導者派遣」や「2017第1回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」の結果等も併せたものです。

本法人は、法人の目的を達成するため、北海道特別支援学校児童生徒のスポーツ活動に係る「知の共有化」を目指して、道内各特別支援学校の体育科での授業、また課外で行われる各スポーツ活動の指導、スポーツ活動を通じた地域の人々との交流活動、何よりも児童生徒の障がい等の実態に即して創意工夫した実践研究等を、助成対象として広く募集して、その成果を本紀要に掲載し、より一層の障がい児スポーツの振興・充実に回ってまいります。

北海道の各特別支援学校教職員をはじめ保護者、支援者等、幅広い皆様方からの御覧の無いご意見ご指導などお願いいたします。

平成30年3月

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会
理事長 小野寺 眞 悟